

学会調査団に参加して

(一財)砂防・地すべり技術センター

火山防災部 主任技師 ふくいけ たかふみ
福池 孝記

1. 調査概要

令和5年7月に豪雨によって福岡県・佐賀県では甚大な土砂災害が発生した。この災害を受け、公益社団法人砂防学会は、7月29日（土）に緊急調査を実施した。主な調査員・調査地は以下の通りである。

【調査員】

- 清水収（宮崎大学教授）（団長）
- 地頭菌隆（鹿児島大学教授）（班長）
- 執印康裕（九州大学教授）（班長）
- 水野秀明（九州大学准教授）（班長）

【調査地】

- 福岡県久留米市田主丸地区（千ノ尾川流域）
- 佐賀県唐津市浜玉町地区（今坂川流域）

上記の学会調査団に砂防・地すべり技術センターから筆者の他、木原技師（火山防災部）、天野技師（砂防部）が参加した。筆者は執印先生が班長の佐賀県唐津市浜玉町地区今坂川流域における緊急調査に参加した。

同地区には計13名で調査にあたった。現地ではさらに2班に別れて調査を実施した。筆者は「今坂川第三」における土石流の氾濫域、「嶽川第二」における崩壊・氾濫域の調査班を担当した。



写真-1 「今坂川第三」における調査の様子

2. 学会調査団に参加して

他の砂防学会員と共に調査を実施することにより、現地の状況把握等に関して多種多様な視点（見方）があり、普段の業務では得られない知見が多くあった。やや抽象的にはなるが、例を挙げると以下の通りである。

- ・「今坂川第三」の氾濫域では、地形状況や土砂移動痕跡等から土地利用の変遷や土砂移動形態に関する考察がなされた。
- ・「嶽川第二」における崩壊域では、崩壊面の風化度合いやパイピングの有無等から崩壊発生要因の推定がなされた。氾濫域では、道路の被災状況や河床部の侵食状況等から流下した土石流の構成材料（コアストーンを含んでいたのかどうか）等に関する推定がなされた。

現地の観察を通して得られる情報の重要性等を再認識するとともに、今回の経験を今後の業務にも活かしていきたいと思う。

3. おわりに

被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。また、調査を共にした砂防学会調査団の皆様へ感謝を申し上げます。

【参考資料】

- ・2023年7月福岡県・佐賀県における土砂災害に係る緊急調査（報告）、砂防学会HP（<https://jsece.or.jp/report/survey/>）



写真-2 「嶽川第二」における崩壊の状況